

(別紙2)

◎ 集計表の指標等の用語の説明

<罹患数等>

1 罹患数…医療機関から届出されたがん患者が初めて悪性新生物と診断された年月日を基に、集計対象年(集計年の1月1日～12月31日)の届出票と、届出がなく集計対象年の人口動態死亡票より悪性新生物の既往がある死亡者との合計数

2 死亡数…人口動態調査死亡統計による悪性新生物死亡者数

<罹患率等>

1 粗罹患率…(その年の年間新発生患者数/その年の人口)×100,000

2 年齢調整罹患率…(Σ(観察集団の年齢階級別罹患率)×

(標準人口のその年齢階級人口))/

標準人口の総計×100,000

※標準人口には、1985年モデル人口を用いた。

3 累積危険率…ある集団の年齢階級別罹患率を0～74歳まで累積したもの。すなわち、他の病気で死なないと仮定して74歳までにその病気に罹る確率。本集計では、対1,000人で表している。

<届出精度>

1 DOC率(死亡票のみの割合)…(死亡票からの登録数/対象年の総罹患数)×100

がん診断の信頼性としての指標。罹患数として把握しているなかのがん死亡票のみによって把握された罹患者の割合を表す。この数値が低いほど、届出もれが少ない(=登録の精度が高い)ことを示し、同率が20%以下だと比較的登録精度が高いと考えられる。

2 DCN率(死亡情報で初めて把握された割合)…((死亡票のみ+補充票)/対象年の総罹患数)×100

登録の完全性としての指標。がん登録票の届出がなく、死亡情報によって登録室が初めて把握した

がん患者の割合で、死亡票のみとがん診断の確認調査(遡及調査)を行い得た情報の割合。この割合が大きいことは、届出がなく生存しているため登録室で把握できなかった登録もれ患者が存在することを示唆する。

3 I/D比・・・罹患数／死亡数

届出によって得られた罹患数の信頼度の指標として用いられる。この値が1.5以下だと届出漏れがあること、2.0以上では調査開始前からの有病者を罹患数として含んでいることなどが考えられる。